

第2分科会では「教学マネジメントを活性化するためのICTの活用の考察」というテーマの下、国際基督教大学より教育課程の体系化について、同志社大学よりラーニング・コモンズ構築による教育改革について事例紹介が行われた。その後、Dグループではラーニング・コモンズにテーマを絞り、討議を行った。以下、箇条書きにて討議内容を報告する。

<各大学におけるラーニング・コモンズの設置状況や課題>

- ・図書館の1階に設置している。場所を作るだけではなく、運用が大事であると考えている。
- ・授業が終わると学生が帰ってしまう。カリキュラムと結びつけたものをしっかりと練りたい。
- ・来年度竣工予定の新棟に図書スペースを設置する予定がある。建物の建築、インフラ整備、什器と3つの部署が関わっているが、学生がどのように利用するかということまで検討されていない。
- ・学習支援室というピアサポートを行う部署ができた。今後建設予定の新棟にラーニング・コモンズを設置し、学習支援室に関わるようにしていきたい。
- ・学内に「アクティブ・ラーニングワークグループ」という組織ができた。ただし、本学では就学意欲の停滞、大学生活への不適應を背景とした退学率の上昇がより大きな問題であり、まずコミュニケーションの場を作ることが必要と感じている。
- ・ラーニング・コモンズが最近設置され、大学院生が常駐している。設立当初は盛況だったものの、現在は活気がない。学生に認知されていない、利用申請の方法がわかり辛いといった問題がある。この他、外国語の自主学習のためのLLCが設置されている。
- ・将来的な新棟の構想でラーニング・コモンズの設置が謳われている。しかし、教員にはその重要性がまだ理解されていない。
- ・企業でもフリーアドレスで仕事を進めることがある。ラーニング・コモンズのような場所でグループで学習する経験は、社会に出てからも役立つ。

<ラーニング・コモンズのあるべき姿、職員の役割>

- ・図書館の一環として設置されている大学が多いが、図書館機能とは区別し、アクティブ・ラーニングを目的とした学習の場とする明確な使い分けが必要。
- ・体系化されたカリキュラムの中にアクティブ・ラーニングが位置づけられていることが重要。
- ・自大学がどのような学生を輩出するか、どのような能力を身につけてもらうか、といったことを定めることが重要。それによって、ラーニング・コモンズの利用のさせ方も変わるのではないかと。
- ・同志社大学ほどの規模で実現させることは難しい。自大学の状況をふまえて、何が必要か検討した方がよい。なお、必要なものは大学により異なるが、ICT機器をどのように利用するかという学習環境をコーディネートする人材はどこでも最低限必要だと思われる。それによって、アクティブ・ラーニングの場が醸成される。
- ・利用させる仕組みは着眼点・アイデア次第で出すことができる。(名刺を作る機械を入れる、ガラスフィルムに投影する、階段の踊り場をプレゼンスペースにする、等)

以上